

令和（ 7 ）年度 教科（ 国語 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを旨とする。

- （1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- （2）社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- （3）言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【教科のゴールイメージ】（つけたい力、資質・能力）思考力・表現力、主体性、自己有用感

- （1）社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使おうとする。
- （2）（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力・表現力を養おうとする。
- （3）言葉を通じて主体的に人と関わる中で自己有用感を高めたり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評価
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	・定期テスト ・小テスト ・授業課題（スピーチ・レポートの技能等） ・行動観察	・定期テスト ・授業課題（スピーチ・レポートの内容等） ・授業ノート、ワークシート等	・振り返りシート ・ワークシート ・提出物 ・行動観察	
観点別到達度（％）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（％）	35%	35%	30%	

【学習計画】

	学期	月	単元・教材名	小単元・学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
国語	1	4	読む〈詩(巻頭詩)〉	未来へ(1) あの夕暮れへ帰る(2) 読む〈言葉の学習〉 読む〈言語感覚〉 短歌を楽しむ／短歌五首(2) 書く〈詩歌創作〉短歌の創作(3) 言葉〈漢字道場〉同訓異字(1) 言葉〈文法の窓／文法解説〉活用のない自立語—単語の 区別で絵を塗ろう(2) 読む〈文学1〉足跡(4) 学びを支える言葉の力〈対話の学び〉 異なる考えの聞き方(1) 話す・聞く〈聞く〉 意見と根拠の聞き方(2) 言葉〈日本語探検〉敬語—宇宙人「ハテナー」がいっしょ る?(2) 言葉〈漢字道場〉漢字の意味(1) 読む〈構成・展開〉 ネコだって推理できる(4) 学びを支える言葉の力〈情報と論理の学び〉情報の関係の 表し方(1) 書く〈伝達〉「地域の魅力」の紹介文—効果的に伝えよう (8) 言葉〈日本語探検〉類義語・対義語・多義語—未知の生物 「ふわボン」(1) 読む〈読書1〉インターネット・新聞の活用／鯉節—世界に 誇る伝統食(3)	1 2 8 10 14 3	伝統と文化 伝統と文化 自己と他者 地域・環境／学 校・社会 科学と探究 学校・社会／情 報社会 伝統と文化
		5	2 作品を読み解く			
		6				
		7	D3 伝え方を工夫す る			
	2	9	D4 思いを深める	読む〈文学2〉字のない葉書(3) 学びを支える言葉の力〈文学の学び〉 人物像(1) 書く〈通信・手紙〉依頼状とお礼状(3) 言葉〈漢字道場〉熟語の構成・熟字訓(1) 言葉〈文法の窓／文法解説〉活用のある自立語—ばらばら 動詞カードをかたづけよう(2) 読む〈吟味・判断〉黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会(5) 学びを支える言葉の力〈情報と論理の学び〉意見と根拠の 吟味(1) 書く〈論証・説得〉「地図」の意見文—根拠を吟味して書こ う(6) 言葉〈漢字道場〉同音異義語(1) 読む〈詩(日本語のしらべ)〉落葉松(1) 古典 枕草子・徒然草(4) 古典 平家物語(4) 古典 漢詩(3) 言葉〈日本語探検〉話し言葉と書き言葉—おしゃべり星人 とふでまめ星人(1) 言葉〈漢字道場〉紛らわしい漢字(1) 読む〈言葉とメディア〉 「正しい」言葉は信じられるか(5) 学びを支える言葉の力〈情報と論理の学び〉具体と抽象 (1) 話す・聞く〈話す〉プレゼンテーション—説得力のある提案 をしよう(6) 言葉〈漢字道場〉他教科で学ぶ漢字(1)(1) 読む〈読書2〉メディアの垣根を越えて／ビブリオバトル (2) 読む〈文学3〉走れメロス(6) 書く〈感性・想像〉短歌から始まる物語—いきいきと描き出 そう(7) 話す・聞く〈話し合う〉リンクマップによる話し合い—話し合 いで問題を検討しよう(6) 言葉〈文法の窓／文法解説〉助詞・助動詞—絵に合う助 詞・助動詞を探そう(2) 言葉〈漢字道場〉他教科で学ぶ漢字(2)(1) 読む〈詩(詩の言葉)〉 わたしが一番きれいだったとき(2) 未来への扉 地球環境と人間社会(3) 言葉〈漢字道場〉小学校6年の漢字〈学習〉(1)	10 13 13 1 13 2 22	平和・国際理解 ／自己と他者 学校・社会／書 写 多様性／平和・ 国際理解 学校・社会 伝統と文化 伝統と文化／社 会(歴史) 情報社会 多様性／学校・ 社会／情報社会 社会・数学・理 科・技術・家庭・ 保健体育 情報社会 自己と他者 伝統と文化 学校・社会／安 全・防災 社会・理科・技 術・家庭・保健体 育 平和・国際理解 地球環境／社会 (公民)・理科
		10				
		11	D5 説得力を高める			
		12	6 伝統文化を味わう			
			D7 表現を考える			
	3	1	D8 描写を味わう			
		2				
		3				

書 写	1	4 5 6 7	D 3 読みやすく速く 書く——行書②	点画の省略 〈桜色〉(3) 筆順の変化 〈若緑〉(3) 行書と仮名の調和〈豊かな自然〉(2)	3 3 2	
	2	9 10 11 12		行書に調和する仮名(2) 文字の大きさと配列(3) 〈草山に馬放ちけり秋の空〉 [生活に広げよう]本のポップを書こう(2)	2 3 2	
	3	1 2 3	D 4 楷書と行書を 使い分ける	楷書と行書の使い分け(1) [文字といっしょに](1) 書き初めをしよう 〈平和の祈り〉〈感謝する心〉〈信念を貫く〉〈最善を尽くす〉 [生活に広げよう](3) 地域の活動に参加しよう——防災訓練	1 1 3	
総時数		140 時間				

令和（ 7 ）年度 教科（ 社会 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】社会的事象の地理的、歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つけたい力、資質・能力）身近な地域の地理、歴史や具体的な事象の学習を通して社会に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して分析し適切に表現する能力と態度を育てる。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	ペーパーテスト (定期テスト、小テスト)	ペーパーテスト (定期テスト、小テスト) 課題提出（記録の整理、内容）	ペーパーテスト (定期テスト、小テスト) 課題提出（記録の整理、内容）	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時 数	他教科等 との関連	
1	4	オリエンテーション	D 地域調査の方法(6)	18	技術・家庭科 理科 保健体育 特別 の教科道徳	
	5	(地)日本のさまざまな地域	日本の地域的特色と地域区分(11)	22		
	6	(歴)近世の日本	ヨーロッパとの出会いと全国統一(8)			
	7		江戸幕府の成立と対外政策(6)			
	8	(地)日本の諸地域	産業の発達と幕府政治の動き(8)	30		
2	9		D 九州地方(5)		国語 保健体育・家庭	
			中国地方(5)			
	10		近畿地方(5)			
	11		中部地方(5)			
	12		関東地方(5)			
3			東北地方(5)	6	技術・家庭科 技術・家庭科	
			北海道地方(5)			
		(地)地域の在り方	D 身近な地域を調べる(6)			
	1	(歴)開国と近代日本の歩み	D 欧米における近代化の進展(6)			29
	2		欧米の進出と日本の開国(6)			
3		明治維新(10)				
			日清・日露戦争と近代産業(7)			
総時数		105時間				

令和（ 7 ）年度 教科（ 数学 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

基礎・基本の定着をはかり、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して数学的に考える資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

事象を数理的に捉え、収集した情報を活用して、問題を自立的・協働的に解決しようとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評価
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	●定期テスト ●小テスト ●休み明けテスト	●定期テスト ●休み明けテスト ●小テスト ●レポート ●提出物	●レポート ●提出物 ●授業観察	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時数	他教科等との関連
1	4	1章 文字式を使って説明しよう	式の計算(9)	16	家庭
	5	「式の計算」	文字式の利用(7)		
	6	2章 方程式を利用して問題を解決しよう	連立方程式とその解き方(10)	17	
		「連立方程式」	連立方程式の利用(7)		
	7		1次関数(3)	19	
		3章 関数を利用して問題を解決しよう	1次関数の性質と調べ方(6)		
	8	D「1次関数」	2元1次方程式と1次関数(4)		
2	9		1次関数の利用(6)	18	理科
		4章 図形の性質の調べ方を考えよう	説明のしくみ(3)		
	10	D「平行と合同」	平行線と角(5)		
	11		合同な図形(10)		
		5章 図形の性質を見つけて証明しよう	三角形(8)	20	
	12	D「三角形・四角形」	四角形(12)		
			確率(6)	9	
3	1	6章 起こりやすさをとらえて説明しよう	確率による説明(3)		社会
		「確率」	四分位範囲と箱ひげ図(6)	6	
	2	7章 データを比較して判断しよう			
	3	D「データの比較」			
総時数		105時間			

令和（ 7 ）年度 教科（ 理科 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

自然の事物・現象に関り、理科の味方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）主体性・思考力・表現力・自己有用感

自然の事物・現象への理解と探究心をもち、ICT 機器を活用し、科学的に説明しようとする。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期テスト 観察・実験レポート (記録の整理、資料の活用、記述内容) パフォーマンステスト	定期テスト 観察・実験レポート(記述内容) ワークシート(記述内容) プレゼンの内容	振り返りシート 観察・実験レポート(記述内容) ワークシート(記述内容) 行動観察(発言、記述、行動内容)	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時 数	他教科等 との関連
1	4	化学変化と原子・分子	DO物質のなり立ち(8)	34	
	5		O物質どうしの化学変化(10)		
	6		O酸素がかかわる化学変化(8)		
	7		O化学変化と物質の質量(8)		
	8		O化学変化とその利用(5)		
2	9	生物のからだのつくりとはたらき	DO生物と細胞(6)	37	特別の教科道徳 保健体育
	10	電気の世界	O植物のからだのつくりとはたらき(10)		
	11		O動物のからだのつくりとはたらき(7)		
	12		O刺激と反応(5)DO気象の観測(12)	36	技術・家庭科
3	1	O静電気と電流(6)			
	2	DO電流の性質(14)			
	3	O電流と磁界(14)			
1~3	4~3	天気とその変化	O雲のでき方と前線(10) O大気の動きと日本の天気(17)	33	社会
総時数		140 時間			

令和（ 7 ）年度 教科（ 音楽 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

- 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てる
- 多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、表現の技能を伸ばし、創意工夫して表現する能力を育てる
- 多様な音楽に対する理解を深め、幅広く主体的に鑑賞する能力を育てる

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

生徒自らが音楽への見方・考え方を働かせ、仲間と協働しながら、音楽や音楽文化に豊かにかかわろうとする

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	・ペーパーテスト（定期テスト） ・技能テスト（歌や器楽テスト） ・行動観察（練習・取組の過程や内容）	・ペーパーテスト（定期テスト） ・ワークシート（記述内容） ・鑑賞の記録、レポート（記述内容）	・振り返りシート ・レポート（記述内容） ・ワーク（記述内容） ・行動観察（発言、記述、取組様子）	
観点別到達度（％）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（％）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	題材名	教材名、学習内容(時数)	時数	他教科等(道徳) との関連
1	4	曲想と音楽の構造との関わりを理解して合唱しよう	○明日を向いて	4	国語
	5	歌詞や曲の背景と音楽のかかわり アルトリコーダーの基本を身につけよう	○翼をください ○夏の思い出 ○アルトリコーダー 高い音(サミング)、アーティキュレーション	2 3	
	6	曲の構成に注目して聴こう	○交響曲第5番 ハ短調	2	
	7	D言葉の抑揚や構成を工夫して音楽を創ろう	○My Melody	3	
	8		○Let's Create!		
2	9	日本と諸外国の歌の特徴(発声の違いなど)を生かして歌おう	○荒城の月 ○サンタ ルチア	4	社会(歴史)
	10	D合唱のハーモニーを楽しみ、合唱で心を通わせよう	○Joyful, Joyful		英語
	11	旋律の重なり合いのおもしろさを味わおう	○クラス合唱曲	5	特別の教科道徳
	12	日本と西洋の総合芸術に触れ、それぞれの特徴を感じ取り、魅力を味わおう	○フーガ短調 ○「アイダ」から ○歌舞伎「勧進帳」 ○長唄「勧進帳」から	2 2 4	社会(歴史)
3	1				
	2	日本の伝統芸能に親しもう	○文楽「新版歌祭文」より	2	社会(地理)
	3	D音楽と生活のつながり、社会における意味を知って音楽を楽しもう 仲間とともに表情豊かに合唱しよう	○受け継ごう!郷土の祭りや芸能 ○世界の諸民族の音楽 ○時の旅人他	2	
総時数		35 時間			

令和（ 7 ）年度 教科（ 美術 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育とともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

【教科のゴールイメージ】（つけたい力、資質・能力）

- （1）楽しく美術の活動に取り組み美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく意欲と態度が向上する。
- （2）対象を見つめ感じ取る力や想像力を高め、豊かに発想し構想する能力や形や色彩などによる表現の技能を身に付け意図に応じて創意工夫し、美しく表現する能力が発揮できる。
- （3）自然の造形や美術作品などについての基礎的な理解や見方を広げ、美術文化に対する関心を高め、よさや美しさなどを味わう鑑賞の力が付く。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	・作品（完成度） ・期末試験（記述問題） ・期末試験（実技問題）	・作品（アイデア） ・アイデアスケッチおよび下描 ・期末試験（実技問題）	・授業への取り組み ・提出物 ・授業態度	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時 数	他教科等 との関連
1	4	・美術史 鑑賞	○北斎からゴッホへ	2	社会 国語
	5	・鑑賞	○日本の美に関心を持つ	1	
	6	・ねんどで和菓子をつくる エ芸	○季節の和菓子製作(粘土造形)に取り組む	5	
	7	・D プロダクトデザイン 鑑賞・デザイン	○必要とされるプロダクトデザイン・ユニバーサルデザイン	1	
2	8		○理想の椅子をデザインする	3	社会
	9	・学期の振り返り	○1 学期の振り返りを行い 2 学期の展望を持つ	1	
	10	・修学旅行しおり表紙デザイン	○修学旅行に向かい、使用するしおりの表紙をデザインする	5	
	11	・水墨画	○墨を使った描写を体験し、表現の幅広さを知る	5	
3	12	・D 絵巻物と漫画の表現 鑑賞	○日本特有の絵巻物と漫画の表現の共通点や違いを探る	2	総合的な学習の時間 国語・社会
	1	・学期の振り返り	○2 学期の振り返りを行い 3 学期の展望を持つ	1	
	2	・遠近法を学ぶ	○一点透視図法で作図する	1	
	3	・D 映像メディア	○一点透視図法を使って、奥行きを感じる平面構成を描く ○ストーリーのあるコマ撮りアニメーションをつくらう	5 3	
総時数		35 時間			

令和（ 7 ）年度 教科（ 保健体育 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

合理的で安全な練習や活動の中で、自身の体の変化に気づき、身体表現としての技能を身につける。できる・わかるための課題を発見・解決する過程で仲間と協働し、主体的に学習に取り組む。

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度（5段階評定）
評価内容	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けているか。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けているか。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養っているか。	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期テスト 実技テスト 学習ノート・ワークシート	定期テスト 振り返りカード・ワークシート 行動観察	振り返りカード・ワークシート 行動観察	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元・教材名	小単元・学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
1	4	体づくり運動	○各運動の基本的な行い方を知る	10	特別の教科道徳
	5	陸上競技（短距離走・リレー）	○競技会：グループ対抗、個人対抗	10	特別の教科道徳
	6	D 球技（ベースボール型）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	10	特別の教科道徳
	7	保健（傷害の防止） 水泳	○傷害の原因と防止 ○色々な泳法に挑戦する	5 5	社会・理科・技術・家庭科 理科
2	8				
	9	D 球技（ネット型）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	10	特別の教科道徳
	10	D 武道（柔道）	○身につけた基本となる技を使って攻防を楽しむ ○練習課題を決めて練習	8	社会
	11	陸上競技（走り幅跳び） 保健（傷害の防止）	○傷害の原因と防止 ○組み合わせた技を滑らかに演技する	6 5	理科・特別の教科道徳 社会・理科・技術・家庭科
	12	D 器械運動（跳び箱運動）	○自分やチームの課題を見つけ、課題解決に向けて練習を工夫する	9	特別の教科道徳
3	1	D 球技（ゴール型）	○スポーツが体と心に及ぼす効果	10	社会 特別の教科道徳
	2	体育理論（スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方）	○記録に挑戦/相手と競争	3	特別の教科道徳
	3	陸上競技（長距離走） 保健（健康な生活と疾病の予防）	○生活習慣病とその予防、薬物乱用と健康	8 6	特別の教科道徳 社会・理科・技術・家庭科
総時数		105 時間			

令和（ 7 ）年度 教科（技術・家庭科 技術分野） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

エネルギー変換の技術と、情報の技術に関する基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付け、課題を解決する力を養う

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	ワークシート 小テスト 定期試験 制作品	ワークシート 設計図 定期試験 制作品	ワークシート 授業の振り返り 設計図 行動観察	
観点別到達度(%)	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合(%)	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容(時数)	時数	他教科等との関連	
1	4	B 生物育成の技術 D Cエネルギー変換の技術	2 生物育成の技術による問題解決	4	理科	
	5		3 これからの生物育成の技術	1		
	6		1-1 生活や社会とエネルギーの技術	1		理科
	7		1-2 エネルギー資源の利用	3		
8	1-3 電気の利用		5			
2	9		1-4 運動の利用	3		
	10		2 エネルギー変換の技術による問題解決	6		
	11		3 これからのエネルギー変換の技術	1		
	12					
3	1	D D情報の技術	1-1 生活や社会と情報の技術	1	社会	
	2		1-2 情報とコンピュータ	4		
			1-3 情報の表現と伝達	3		
3	1-4 情報セキュリティと情報モラル		3			
総時数		35 時間				

令和（ 7 ）年度 教科（技術・家庭科 家庭分野） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】

生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成する

【教科のゴールイメージ】（つきたい力、資質・能力）

食生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を主体的に身につけようとする。また、これからの生活を展望して課題を解決しようとする

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既有的の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	ワークシート（記述内容） ペーパーテスト（定期テスト） 調理実習	ワークシート（記述内容） ペーパーテスト（定期テスト） 長期休暇の課題	振り返りシート ワークシート（記述内容） 行動観察（発言、記述、行動内容等） 長期休暇の課題	
観点別到達度（％）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（％）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元・教材名	小単元・学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
1	4	D 食事の役割と中学生の栄養の特徴	①食事の役割	1	特別の教科道徳 保健体育
	5		②健康に良い食習慣	1	
	6	中学生に必要な栄養を満たす食事	③栄養素の種類と働き	2	
	7		④中学生の栄養の特徴	1	
2	8		①食品の栄養的特質	2	保健体育 保健体育
	9	D 日常食の調理と地域の食文化	②中学生の1日に必要な食品の種類と概量	1	
	10		③献立作成の方法と1日分の献立の工夫	2	
	11		①用途に応じた食品の選択	2	
	12		②生鮮食品の特徴	1	
			③加工食品の特徴	1	
			④食品の保存と食中毒の防止	1	
3	1	D 生活の課題と実践	⑤日常食の調理	2	社会 特別の教科道徳
	2		⑥肉の調理	4	
	3		⑦野菜・イモの料理	4	
			⑧魚の調理	4	
			⑨日本の食文化と和食の調理	2	
総時数			①持続可能な食生活を目指して	2	
			②食生活の課題と実践	2	
		35 時間			

令和（ 7 ）年度 教科（ 英語 ） 第（ 2 ）学年 年間指導計画

【教科の目標】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

【教科のゴールイメージ】（つけたい力、資質・能力）

1. はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要をとらえることができる
2. 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる
3. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる
4. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる
5. 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる

【評価の観点と評価方法】

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	総合到達度 5段階評定
評価内容	既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか	各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているか	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているか	5 90%以上 4 80%以上 3 50%以上 2 20%以上 1 20%未満
評価方法	定期試験 実技テスト（口頭） 実技テスト（筆記）	□自分がふだんよくすることや、できることを伝えることができる。	休み明けテスト 単語テスト 暗唱テスト 提出物	
観点別到達度（%）	A 80%以上 B 50%以上 C 50%未満			
観点別割合（%）	35%	35%	30%	

【学習計画】

学期	月	単元、教材名	小単元、学習内容（時数）	時数	他教科等との関連
I	4 5 6 7 8	Unit0 My Spring Vacation	O be going to, will, SVOO, SVOC	15	技術・家庭科（家庭）
		Unit1 What can we experience on a trip ?	O 接続詞 when, if, that, because	15	
		RLE1 機内放送	O 不定詞、It is ...+to	1	
		Unit 2 What is local food ?	□ 自分の1番好きな日本食について、その特徴や好きな理由を発表することができる。	15	
		RLE2 旅先で	O have to, 助動詞 must、動名詞	1	技術・家庭科（技術）
		Unit3 What kind of job are you interested in ?	O 疑問詞+to	15	
		RLE3 仕事についてのインタビュー	O 比較表現	1	
		D Stage Activity I My favorite Japanese Food	□ 自分の学校や学校生活について、具体例をまじえながら説明することができる。	3	
			O 受け身		

2	9 10 11 12	D LR1: History of Clocks Unit4 What is important in a homestay ? RLE4 ホームステイのお礼状 Unit5 What design is good for everyone ? RLE5 アナウンス・案内 Unit6 How can we make a good presentation ? RLE6 電車の乗り換え	□自分の立場を明確にして、意見を述べる ことができる。	2 15 1 15 1 15 1 3	技術・家庭科（家 庭）
3	1 2 3	D Stage Activity2 My school and School Life ? D LR2: A Grass of Milk Unit7 What are World Heritage sites and their problems ? RLE7 買い物 D Stage Activity3 Let' s Have a Discussion D		2 15 1 3	
総時数		140時間			